

2024年 3月 4日

## 2023年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 一般社団法人三陸まちづくりART  
代表者・役職名 氏名 代表理事 前川一枝

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

「こころの表現」と『いのちのかたりつぎ』事業

### 2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

団体設立時期: 2021年1月

実現目標: 被災地三陸沿岸で、創造的なアート活動を通して、世代を問わず地域の住人が楽しくまちづくりに参加できるような企画を立案、実施し“まちびらき”に貢献すること。

主な活動内容: <舞台普及活動> 高校等での芸術鑑賞会市民参加の舞台支援  
<Art Workshop> 演劇、ダンス、合唱等  
<国際文化交流> アジアの民俗芸能の招聘等

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

震災復興のための新たなインフラが整ってきている反面、防潮堤建設や震災の記憶の風化など、防災に対する子供たちの意識は低下していると考えます。

本事業は、石巻市教育委員会と連携し、津波の被害に遭った小学校や特別支援学校を中心に参加者を募り実施します。令和2、3、4年度と実施してきましたが、参加児童や保護者等より、次年度以降の定期的な開催を要望する声も多く、今後も継続して行っていきたいと考えます。特に「演劇や音楽を通して楽しみながら防災意識を高めていける」といった声を参加者から頂いています。

### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

歌やダンスや演劇を通じて、楽しみながら自然災害テーマにした作品を創作することで、災害を次の世代に継承することについて大人と子供が一緒に学び話し合う機会を創造しました。また、作品内容と自身の災害の記憶や思い出が一体となってアート作品として昇華する体験を提供することができました。

#### 具体的な内容

1. ワークショップ(以下WS)① 稽古(歌とダンス) 90分 \*WS会場は旧観慶丸商店(石巻市)
2. WS② 稽古(演劇) 90分
3. WS③ オーディション 120分 ※配役を決めるためのもので希望者は全員出演可能
4. 会場でのリハーサル 180分
5. 演劇作品「いのちのかたりつぎ」上演(上演時間65分)  
2024年2月4日(日)河北総合センタービッグバン(石巻市)にて

### 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生じた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

WS参加者は延べ98名にのぼり、一般公演の来場者は約185名でした。

公演の観客数は、昨年度は100人だったが本年度は185人と年を追うことに増えてきています。

今年度は石巻市以外の女川町と東松島市の後援・協力を得られたので、石巻市以外の子どもたちの参加がふえました。

---

東日本大震災をはじめ様々な自然災害をテーマにした作品を計5作品採用したことで、参加者や観劇者が多面的に震災を捉えることにつながりました。また、参加児童が表現活動を通して楽しみながら防災・減災について学び、共に作品を創る体験をしたことにより、被災の事実を語り継ぐことの意義や、体験したこと・見聞きしたことをどう伝えていくのかについて考えたり、防災について親子で話し合ったりするきっかけを提供することができました。さらに、一般公演を行ったことにより、歌や演劇などの文化活動が、防災・減災に寄与することを多くの市民に実感していただくことができたと考えます。

#### 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

WS会場や舞台参加の人員数が限られることから、参加することのできる子どもも限定されました。震災を知らない子どもが増えていく中、より多くの子どもたちが参加できるよう今後は会場の選定やスタッフ数などを見直し改善していきながら来年度以降の事業を継続したいと考えています。さらに災害について子どもたちと対話の時間を増やし、同時に楽しく表現活動に取り組む場を増やしていきたいです。本プロジェクトを通して参加者・観劇者に様々な気づきを提供し”演劇×防災”の表現の中でより記憶に強く刻まれることで、家族や地域で防災について話し合うきっかけとなり、ひいては地域の防災活動がより活発になっていくことを目指していきます。

#### 7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。